



# 千葉労働動力

## 武力突入、虐殺を許す友 公使館-日本 郵便をどう見よ

「リマの日本大使公邸人質事件で、ペルー政府は二十二日午後三時二十三分、公邸に特殊部隊を突入させ、トゥバク・アマール革命運動 (MRTA) のメンバー十四人全員を射殺し、人質を解放した。フジモリ大統領は突入後、公邸前で記者会見し、「テロリストの脅しに屈しない」という模範を世界に示した」と述べた。橋本龍太郎首相も首相官邸で緊急記者会見し、事前に連絡がなかったのは「遺憾に思う」としながらも、フジモリ大統領らペルー政府関係者に謝意を表明した。(二三日朝日新聞夕刊一面トップから)。

「強行突入、ゲリラの全員射殺による、人質の解放」というフジモリ大統領の決断について世界はそれを評価し、日本も新聞やTVの報道番組で全面的に支援するという声でおおわれました。

しかし、私達は労働者として今回の事態を正しくとらえる必要があると考えます。

### 労働者としての視点

まず始めに、なぜこの事件がおきたのでしょうか。それは、ペルー内の国情がああいう闘いを必然化させているのです。

日本をはじめアメリカなど、「先進国・大国」といわれる帝国主義諸国が、「後進国・小国

発生127日目

### 犯人は全員射殺

### 判事と2兵士死亡

### 公使館日本人24人全員解放

リマの日本大使公邸人質事件で、ペルー政府は二十三日午後三時二十三分、公使館に特殊部隊を突入させ、MRTAのメンバー十四人全員を射殺し、人質を解放した。フジモリ大統領は突入後、公使館前で記者会見し、「テロリストの脅しに屈しない」という模範を世界に示した」と述べた。橋本龍太郎首相も首相官邸で緊急記者会見し、事前に連絡がなかったのは「遺憾に思う」としながらも、フジモリ大統領らペルー政府関係者に謝意を表明した。(二三日朝日新聞夕刊一面トップから)。

**現実を告発**

それを押さえるための強力な軍隊と国家警察、当然にもフジモリ政権は、ペルー侵略の張本人である日本やアメリカに支援された軍事政権です。(それを

**我々の立場**

まさに、今回の強行突入をよし、とするのは絶対に間違いです。ペルーで起きたことは、明らかに支配権力を握っている者達が、闘いを挑んだ勢力を問答無用で虐殺したのです。テロリストは、フジモリその人です。

現実を告発

こうした労働力、資源の流動は、農村の疲弊と過疎化をもたらし、ペルーの人民に都市部でのスラムでの生活を余儀なくさせ、貧富の差の拡大、貧困と失業をもたらししています。

こうした現実をたいし、それからの解放を求めて、被抑圧諸国の人民は闘いに決起するのは当然のことです。

問題とは、橋本政権がペルー日本大使公邸への武力突入を賛し、「立場が違えば私も同じことをした」と言い放ち、翼賛国会は「感謝決議」まであげたということだ。

また、これをとらえて「日本には危機管理体制がない」として、朝鮮有事のガイドライン策定などの安保の強化、首相官邸に権力を集中する、首相の権限の強化、警察や自衛隊の強化、

救出作戦の成功を評価

橋本首相は二十三日午前、リマの日本大使公邸人質事件が解決したのを受けて首相官邸で二回記者会見し、日本人の人質全員が救出されたことについて「チャンスをとらえて見事な救出活動をしたフジモリ大統領を心から敬意を表した

救出作戦の成功を評価

橋本首相は二十三日午前、リマの日本大使公邸人質事件が解決したのを受けて首相官邸で二回記者会見し、日本人の人質全員が救出されたことについて「チャンスをとらえて見事な救出活動をしたフジモリ大統領を心から敬意を表した

救出作戦の成功を評価

橋本首相は二十三日午前、リマの日本大使公邸人質事件が解決したのを受けて首相官邸で二回記者会見し、日本人の人質全員が救出されたことについて「チャンスをとらえて見事な救出活動をしたフジモリ大統領を心から敬意を表した

救出作戦の成功を評価

橋本首相は二十三日午前、リマの日本大使公邸人質事件が解決したのを受けて首相官邸で二回記者会見し、日本人の人質全員が救出されたことについて「チャンスをとらえて見事な救出活動をしたフジモリ大統領を心から敬意を表した

今日の夕刊から。一朝日

